



2025年1月21日
日本地震再保険株式会社

『2025 ひょうご安全の日のつどい』にブースを出展

～フェニックス共済（兵庫県住宅再建共済）と連携し、事前の備えの大切さをアピール～

日本地震再保険株式会社（取締役社長 大塚 慶介）は、1月17日、神戸市 HAT 神戸・なぎさ公園で開催された「2025 ひょうご安全の日のつどい」にブースを出展しました。

「ひょうご安全の日」とは、ひょうご防災減災推進条例に基づき、阪神・淡路大震災の経験と教訓を継承するとともに、いつまでも忘れることなく、安全で安心な社会づくりを期する日として定められたもので、県民の参画のもと様々な事業に取り組みられています。

今年は、阪神・淡路大震災から30年を迎えるにあたり、「震災を風化させないー『忘れない』『伝える』『活かす』『備える』」に、新たに『繋ぐ』をテーマに加え開催されました。

当社は、兵庫県が独自に運営するフェニックス共済（兵庫県住宅再建共済）と並んでブースを出展し、地震等の自然災害に対する金銭的な事前の備えの大切さをお伝えしました。

（注）フェニックス共済の詳細はこちら → <https://www.jutakusaiken.jp/gaiyo/index.html>



ブースの様子（左）当社・（右）フェニックス共済

当社のブースでは、被災した際に得られる支援金や義援金などの「公助・共助」には残念ながら限界があり、生活を再建するためには自助の手段の一つである地震保険への加入が有効であることや、兵庫県にお住まいの方々は、この地震保険に加えて、フェニックス共済にも加入することでより充実した補償が得られることなどを説明しました。

当日、200名を超える方々に当社のブースへお立ち寄りいただき、熱心に説明を聞いていただきました。



今後も、当社はこのような情報発信を通じて、引き続き SDGs 目標に掲げられた「災害による貧困の解消」や「住み続けられる街づくり」に貢献してまいります。

当社では、地震保険の付帯率向上や防災・減災を推進する活動を通じて、国連サミットで採択された SDGs (Sustainable Development Goals) の達成に向けた取り組みを進めています。

